



INGING MOTORSPORT



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [http://www.inging.co.jp]

INGING NEWS PAPER 2011 VOL.03

Race Report

AUTO POLIS ROUND.2 FINAL

2011年 6月5日 第2戦 AUTO POLIS [決勝]

Topics

レーシングドライバー 中野信治

決勝 2011年6月11日 ルマン24時間耐久レース完走

FREE
無料

INGING NEWS PAPER VOL.3 [インギング ニュースペーパー]

発行：株式会社インギング 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-27-10 1F
2011年6月5日発行 価格200円

Support by cyber net

RACE REPORT

Round.2 AUTO POLIS 6/5 SUN

惜しくもQ3進出は果たせなかったものの、Q2に進出し11番グリッドを獲得。

決勝 2011年6月5日 オートポリス <決勝レース/54周> 天候:晴~曇 | コース状況:ウエット~ドライ

惜しくもQ3進出は果たせなかったものの、Q2に進出し11番グリッドを獲得した国本とProject μ/CERUMO-INGINGだが、一時は天候が持ち直るのではないかとの予報があったものの、一夜明けた日曜日のオートポリスは朝から雨。九州北部がこの日雨入りし、一転してウエットコンディションとなってしまったことで、国本にとって白旗前フリール走行はスタートからスタートで初めてのレインタイヤでの走行となった。

WEI予選が実施され、午前9時から始まった30分間のフリール走行。他のセッション同様、国本も早々にコースインするが、その直後に1コーナー手前で緩急ミスがクラッシュ。このため、セッションはわずか3分で中断となってしまった。

約8分間の中断の後、午前9時11分にセッションが再開されると、国本は連続走行に入る。最初は2分05秒とゆっくりとしたペースで練習コンディションを兼ねながらのラップを周回して行くが、徐々にペースアップ。11周目には1分55秒065と55秒目を通過し、午前9時半にチェッカーが提示された直後、ファイナルラップには1分53秒418とベストタイムを更新し、最終的に11番手というポジションでこのセッションを終えることとなった。このフリール走行で行われたサーキットスタッフの周回時は非常に活況を呈し、セッティングと決勝への準備を整えた国本は、いよいよ午後2時30分からの決勝レースに臨んだ。



AUTO POLIS 6/5
オートポリスで初めてのレインタイヤでの走行

FORMULA NIPPON

FINAL ROUND

AUTO POLIS

レース距離250km、54周もの長丁場の激戦となる決勝。ところが、サポートレースやピットワークの間に雨脚が降り、どどんと雨音が響き渡る中、スタートとなる。そのため、決勝スタート直後のウォームアップ走行では、まずレインタイヤでコース状況を確認。状況次第でドライタイヤに履き替えるつもりでコースインした国本だったが、なんとここでミッションにトラブルが現れてしまった。

すぐさまピットインする国本。そのマシンに取り付き、修復作業に当たるメカニックたち。決勝を目前に控え、ただならぬ緊張感に包まれるピットの中で、Project μ/CERUMO-INGINGのスタッフたちは必死の作業を続ける。

雨はピットレーン出口の信号も赤となり、一時はピットスタートを實現したものの、フォーメーションスタート20分前にファステーンに出られればグリッドに定着することが出来るというレギュレーションに限り、チームはぎりぎりまで作業を行った結果、見事残り数十分のところで国本の乗ったマシンがファステーンに出すことになり、本来の11番グリッドに定着することは出来なかったものの、最後まで燃える熱意をフォーメーションラップに参加することとなり、第一、スタッフの努力の甲斐あってスタートのときを迎えた国本は、午後2時34分にレッドシグナルが消えると、猛然と1コーナーに向けて加速していった。

しかし、空車がレインタイヤを装着してスタートも、国本はもう確信ラインが切れている状況。このため大膽な作戦。半端一貫り数のマシン同様、国本も1周目にピットに飛び込み、タイヤをドライタイヤに履き替える。このため、いったん15番手までポジションを下げたものの、2周目、3周目にピットインするマシンもあったことから、国本は4周目には10位、5周目には8位と一気にポジションを挽回。さらに7周目には5位の中嶋大祐がコースアウト、6位の井口卓人もマシントラブルでロードアップしたことで、国本は一気に6位にまで浮上。1周目のタイヤ交換というチームの戦略が、序盤は奏功した様相となった。

しかし、ウォームアップ走行をトランプのために完全に実行出来ていなかったこともあり、マシンはアンダーステア傾向が強くなり、国本はポジションこそよくなったものの、思うようなペースでの進出が出来ず苦しい走りを見せてしまう。序盤はアドリア・カルダグリの猛攻に負い、9周目に7位に後退。国本だったが、その間に山本康典の退場を押し退けた。

9位に後退したポイント圏内からいったん脱落してしまうものの、19周目に進んで、カルダグリのピットイン後の21周目には8位に返りこくと、25周目

その後11周目には1分38秒012と、そこまでのベストタイムを更新する。そこから延長予選中伊沢の猛攻に耐え続けた国本は、15周目には1分37秒558、20周目には1分37秒530と自己ベストを更新。更に強い

にはこの日のベストラップとなる1分37秒521をマークすると同時に7位に、伊沢、アレキサンダー・レイベトリーを捉えてしむとい走り続ける国本には、ポイント獲得の希望が感じられた。

ところが、30周を過ぎたあたりからタイヤも消耗し、いっそうハンドリングが悪化した国本は38周目に伊沢のオーバーテイクを押し8番手に、さらに40周目、インベトリーの猛攻を押し国本は再びポイント圏内の9位への後退を余儀なくされてしまう。

さらにレース終盤、世界的に暑いことからチームは45周目に国本をピットに呼び寄せ給油を行うことに、このため1ラップ遅れの11位となった国本は、なんとトップ10入りを目指したものの、その競い合いは終わるまでチェッカー、予想外のトラブルに始まり、想像以上に暑いレースとなってしまったが、Project μ/CERUMO-INGINGと国本は、最高峰での2戦目を11位で完走することとなった。

33 RACE RESULTS

[33] 国本 雄資 11位

Time	1:29'51.258
Delay	1Lap
Best	1'37.521

RACE COMMENT

AUTO POLIS 6/5

「ギヤに問題があって、スタートに間に合わないかもしれないところを、チームの努力でなんとか最後尾ながらグリッドからスタートするこ...」

とが出来ました。アウト&インでピットに入ってタイヤをドライタイヤに換えたのですが、マシンのバランスが深くアンダーステアで.....。最初から最後までずっと状況は変わらず、さらに終盤は早くタイヤがロックするようになってしまっ...」

て一善苦しい戦いになってしまいましたが、この経験を活かして次の富士ではポイント獲得を狙いたいと思います。



TEAM MANAGER

【監督】 立川 祐路



「スタート直前にトラブルを出してしまったことは、チームとして反省し、もう少しチェックなどしっかりしなければと思います。しかし、その中でもなんとか修復を間に合わせ、グリッドにマシンをつけることが出来たことは良かったですし、1周目のタイヤ交換の判断も正しかった。そのあたりの序盤の展開は上手く行っていたと思います。ただ、そこからペースが上がらなかったのが要因ですね。最後の給油のピットインも、本道ならば良かったのですが、燃費が苦しいというチームの計算もあったので.....。ただ、上位のマシンで無給油で完走している車両もいるので、そのあたりを含めて次戦までに見直し、国本の得意な富士では良いレースが出来ようチームとして頑張りたいと思います。」

